

令和4年度第1回総合教育会議議事録

日 時	令和4年7月26日（火） 午後2時00分～午後3時30分
場 所	秦野市役所教育庁舎3階会議室
出席委員	秦野市長 高橋 昌和 教育長 佐藤 直樹 教育長職務代理者 飯田 文宏 委員 片山 恵一 委員 牛田 洋史 委員 小泉 裕子
欠席委員	なし
委員以外 の出席者	教育部長 原田 真智子 生涯学習課長 水島 一葉 文化スポーツ部長 宇佐美 高明 図書館長 山本 英範 教育総務課長 守屋 紀子 末広小学校長 吉田 正也 学校教育課長 坂口 憲 教育総務課課長代理 中村 武史 学校教育課担当課長 上條 秀香 教育総務課主事 栗飯原 里史 教職員課長 古木 学 教育指導課長兼 教育研究所長 丸野 研二
傍聴者	0名

教育部長

定刻となりましたので、ただ今から令和4年度第1回総合教育会議を開催いたします。

それでは、お手元にお配りしてございます会議次第に沿って進めてまいります。まず、開会に当たりまして、高橋市長より御挨拶をお願いいたします。

高橋市長

皆さん、こんにちは。

本日は、お忙しい中、総合教育会議に御出席いただき、ありがとうございます。

この総合教育会議は、年に2回ほど開催させていただいておりますが、前回開催の昨年10月末には、新型感染症も落ち着いている状況にあるというお話をさせていただきましたが、残念ながら、ここに来て感染者数が急増し、依然として予断を許さない状況が続いており、子どもたちの学校生活の様々な場面に影響を及ぼすものと懸念しております。

最も心配されるのは、9月初旬に予定されている小学校の修学旅行です。

中学校につきましては、9校すべてにおいて、6月初旬までに修学旅行を実施することができました。子どもたちの一生の思い出ともなる大きな行事ですので、実施できることを心から願っております。

さて、本日の会議では、新型コロナウイルスの影響もあり、急速に進展したGIGAスクール構想により、学校現場がどのように変わったか、また、子どもたちの学びの充実や教職員の負担軽減に効果が出ているのかというところから、「学校教育の情報化の推進について」を議題とさせていただきました。

学校教育の情報化は、今後の教育行政にとって、重要な施策であると考えておりますので、皆様方の忌憚のない御意見をいただければと考えております。

本日はよろしく願いいたします。

教育部長

ありがとうございました。ここから議題に入る訳でございますが、進行につきましては、秦野市総合教育会議運営要綱第2条第2項の規定により市長が行うこととされておりますので、高橋市長よろしく願いいたします。

高橋市長

【議題1 学校教育の情報化の推進について】

本日の議題は、「学校教育の情報化の推進について」です。

国のGIGAスクール構想を踏まえ、児童生徒一人1台の学習用端末を導入し、昨年度から本格的な活用を開始したところですが、1年が経過して各校での活用状況はどのようなか、まずは執行部からの説明をお願いします。

学校教育課長

GIGAスクール構想で整備しました学習端末ですが、令和3年4月から学校内での活用が始まりました。12,561台の端末を導入しまして、端末利用率は、昨年2学期以降、99%前後と、高い割合で推移しています。ほとんどの端末が利用されている状況になります。

また、通信量は、昨年9月に最高値を記録しており、その後は減少傾向となっております。しかし、感染症への対応のため、オンライン授業を多く実施した月があり、今年の2月に上昇し、その後は増減を繰り返している状況となっております。しかし、今年の7月に入り、感染者が増加している影響もあり、端末を利用したオンライン授業を積極的に導入し、子どもたちの接触を避け、感染防止を図りながら、教育環境を継続することができたと考え

教育研究所長

ています。

それでは私からは、学習端末を活用した学校現場での学習方法につきまして、動画を御覧いただきながら、御紹介させていただきます。

令和3年度までに完全実施となりました学習指導要領にあります令和の日本型学校教育として、個別最適な学び、創造的な学び、が行われている様子を御紹介します。

【動画】
教育研究所長
(動画解説)

【動画による中学校のキュビナ、小学校ロイロノートの紹介】

まず中学校での「個別最適な学び」の様子ですが、学習ドリルアプリを活用し、個々の課題に合わせた最適な問題に取り組んでいます。

東中学校の英語では、単元のまとめとして、復習や発展問題、更にはリスニング問題も活用しています。

鶴巻中学校の数学では授業の終わりの練習問題として活用しており、授業の中でも自然と教えあいの雰囲気生まれてきます。

また、間違えた場合には、その部分を補足するような問題が次に出題されるため、分からないまま次に進む、ということはなく、着実に力をつけていくことができます。

次に小学校の協働的な学びの様子ですが、学習支援アプリのロイロノートを有効活用しています。大根小学校の算数では、子どもたち一人ひとりの意見を全員で確認しながら、学びが進んでいきます。自分の考えをまとめることにも効果的で、シンキングツールという機能を使って頭の中を整理し、それをもとにグループや全体で話し合いや発表をします。末広小学校の国語では、広告の作成に活用しました。作品を全体で共有し、一つひとつの作品の良い点についてコメントしていきます。最後は全員で投票を行い、最もよくできている作品を決定しました。

御紹介は一部ではありますが、このようにICTを有効活用し、個別最適な学び、協働的な学びに取り組んでおります。

動画の紹介は以上となりますが、本日、末広小学校の吉田校長先生に、オンラインで参加していただいております。

実際の授業の様子やオンラインの活用状況などについて、説明をお願いいたします。

吉田校長

(オンライン参加)

秦野市立末広小学校の吉田です。

私からは、小学校のロイロノート等について、お話しさせていただきます。

ロイロノートは、御覧いただいた動画にもあったとおり、画像や自分で作成したスライドなどを自分の好きな順番にページに割り振ることなどができるアプリケーションになります。その機能を使い、学校では様々な場面で活用しています。具体的には、子どもたちが自分たちで考えたことを、絵や図、写真などを使いながら自由に表現するといった活動をしています。子どもたちが主体的に学習に取り組む力を育むために、さまざまな教科の中で、子どもたちが自分で考える時間を確保して、友達に伝えるといった時間を多く設けるようにして、学習を進めています。ロイロノートは、自分の考えを表現し、伝えるツールとして効果的に活用されています。子どもたちが自分の考えを、ロイロノートを活用してまとめ、それを人に伝える活動を進めています。こうした活動を通して、児童同士との交流しながら、自分の考えを深め、高めていく活動としています。また、ロイロノートは、児童が作成した経過や内容を教師が一元管理できますので、作成が上手な児童の内容を苦手な児童に提示して、手助けをしたりしています。また、完成した作品は、評価の対象としています。さらに、小学校では、児童集会、委員会活動、クラブ活動の発表などがありますが、ロイロノートを活用しています。例えば、1年生を迎える会がありますが、自分たちで動画の撮影、編集を行い、1年生に見せる動画を作成したりしています。小学生たちが、さまざまな場面で主体的に伝える、表現するために欠かせないツールとなっています。こうした活動の中で、学校課題に積極的に取り組む力となり、学力向上にもつながる取組であると考えています。また、オンライン学習について、動画の中でも中学生がキュビナを使っている映像がありましたが、朝の会などは、グーグルミートというZoomのようなアプリケーションを使いながら、子どもたちと会話し、その日の課題を提示します。その後、子どもたちがキュビナを使い、その課題に取り組むといった使い方もしています。子どもたちが課題に取り組んでいる状況は、キュビナを通して、教師が把握できるため、取組内容の結果について、帰りの会で報告するなど、効果的にオンライン授業として活用しています。また、撮影用のタブレットも配布されたので、その活用も図っていきたいと思っています。

高橋市長

吉田校長先生、ありがとうございました。

オンラインや動画を取り入れての、まさに情報化の進捗が分かる説明でした。

それでは、ただ今の説明、報告を受けて、まずは委員の皆様からの率直な感想や御質問をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

小泉委員、お願いします。

小泉委員

児童生徒に一人1台タブレットが導入され、動画の様子から、ICTの活用が進んでいると感じました。また、御家庭でも、スマホやタブレットの使用頻度が増えていると思います。色々と便利になる一方で、子どもたちの視力低下が気になるところです。

前回の議会の一般質問でも取り上げられていましたが、子どもたちの視力が下がっている傾向などは、あるのでしょうか。

学校教育課長

児童生徒の視力検査の結果ですが、端末導入前後である令和元年度と令和3年度と比較しましたところ、裸眼の視力が、0.6以下の人数ですが、令和元年度1,725人だったものが、令和3年度は1,808人となり、83人増加しています。また、全児童に対しての割合ですが、14.5%から15.8%と1.3ポイント増加しています。令和元年度と3年度の短期的な比較になりますので、視力低下の傾向が、学習端末によるものなのかは、まだ言い切れない部分がありますが、視力について、低下傾向にあることが伺えます。学校では、視力低下への対策として、保健だよりなどで目の健康に触れたり、また、子どもたちには、保健指導の時間に、目も含めた体全体の健康管理についても指導を行っています。また、クラス担任から必要に応じて、授業中の姿勢について注意したり、また、遠くを見るようにと声掛けするなど、日ごろからの習慣に気を付けるよう促すほか、10月10日の目の栄養デーに合わせて、正しい姿勢や健康に関するクイズを行うなど、さまざまな啓発活動を行っています。また、タブレット端末については、家庭学習の手引きを保護者あてに配布し、使用方法と併せて目を休めることなどの注意喚起をしています。

高橋市長

ICTの活用を進める一方、成長期にある子どもたちの健康面への配慮も併せて、進めていく必要があると感じました。

ほかに、いかがでしょうか。

飯田委員。

飯田委員	<p>先ほどの動画で、子どもたちがスムーズに使いこなしている印象があります。</p> <p>その一方で、ICT が苦手な児童・生徒もいるのではないかと思います。そういった子どもたちへの、そのフォローなどはどのように行っていますか。</p>
吉田校長	<p>子どもたちは、グループでの活動を多く取り入れているため、手助けをしながら進められています。子どもたちの習得は非常に速く、苦手な児童は、それほど多くないと感じています。周りの児童と一緒に進めていくことで、操作技術も上がっていると感じています。</p>
高橋市長	<p>他に、いかがでしょうか。</p> <p>片山委員、お願いします。</p>
片山委員	<p>キュビナで作成した情報等を先生方が把握できる旨の御説明がありました。教職員の多忙化の観点からいうと、先生方が大変になるのではないかと懸念するところですが、吉田校長のお考えを教えてください。</p>
吉田校長	<p>教職員が新しいことを習得するということになりますが、学年毎の教職員が相談しながら進めています。逆にプリントなどを用意するよりも効率的にできることの方が多いと感じています。最初は、操作技術等を覚えることになりますが、その後は、効率的に授業の準備等を行うことができると感じています。</p>
高橋市長	<p>他に、いかがでしょうか。</p> <p>牛田委員、お願いします。</p>
牛田委員	<p>タブレットの活用については、子どもたちの学びの世界が広がり、個別最適な学習の場の提供、また、子どもたちの知的好奇心を掻き立てるといふ、素晴らしいツールであると感じました。一方で、子どもたちの成長と発達に合わせて、教職員も操作性、指導技術等を習得していかなければならない難しさ、負担が出てくると考えますが、吉田先生は、校長として、何かお感じになつていらっしゃるのでしょうか。</p>

吉田校長

最初の頃は、負担感、また職員の技術の差があると感じていました。本校でも2人のICTマイスターがおりまして、この2人を中心に研修会なども行い、教職員全体のスキルアップを図りました。小学校では、「学年研」というものが行われていまして、学年単位で話し合いが行われています。こういった機会を活用して、技術や具体的な活用事例を共有しながら取り組み、負担軽減にも結びつけていきたいと考えています。

高橋市長

動画に関する内容は、よろしいでしょうか。

それでは、吉田校長先生は、ここで退出されます。

吉田校長先生、現場での学習状況の御紹介、ありがとうございました。

それでは、学校教育の情報化全般に関して、御意見や御質問は、ありますでしょうか。

飯田委員。

飯田委員

先ほどの説明で、各校がそれぞれ工夫し、授業などでのICTの活用が進んでいることが分かりました。

その一方で、学校間において、ICTの活用に格差が生じていないのか気になりますが、そのあたりは、いかがでしょうか。

教育研究所長

各校間でのICTの活用の格差という御質問ですが、ICTに長けている教員が主体となって技術を広めていくため、本市独自の取組として、ICTマイスター制度をつくり、各校が工夫しながら取組を行っています。その様子につきまして、動画を用意しておりますので、御覧ください。

【動画】

【動画によるICTの活用の様子、デジ田甲子園等の紹介】

高橋市長

小学生が端末を使いこなしていて、非常に頼もしく思いました。

今後もICTマイスター制度を活用し、市全体での底上げに努めてほしいと思います。

タブレットの活用については、令和3年2月に、実証実験校の東中学校でタブレットを活用した英語の授業を参観する機会をいただきました。

その際、生徒の発音をソフトが読みとって、その発音が正確でないとソフトが正解と判定しないという場面を見て、今の技術は

すごいなと感じました。

そこで、私からの質問ですが、先日の議会でも英語教育の取組について質問がありましたが、ICTの利活用を含め、小学校での英語教育というものが、現状では、どのように進んでいるのでしょうか。

教育指導課長

現在、小学校外国語については高学年を中心に教科担任制が急速に進んでおり、中学校につながるよう系統性を意識した授業を行っています。

児童が英語による発表を行う場面で活用したり、発話や発音を録音・録画して英語力の向上に活かしている授業もあります。

また、小学3・4年の外国語活動では、英語を楽しむことに重点を置き、「聞く」、「話す」ことを中心に進めています。具体的には、音や映像を聞くことから始め、ゲームや歌などを通して、「話す」ことに取り組んでおり、1授業45分間で、年間35コマを実施しています。授業時間の半分以上を児童が英語による言語活動を行っており、その中でICTも活用されています。

高橋市長

児童の英語による言語活動が、授業時間の半分以上で行われるなど、思った以上に小学校での英語学習が進んでいると感じました。

その他いかがでしょうか。

教職員課長

今、小学校での英語の授業のお話がありましたので、私から、英語の教員の状況についてお話させていただきます。

中学校は、英語の授業を受け持つ全ての教員が、英語の教員免許状を保有しているのに対し、小学校では英語免許を持たない教員が英語の授業を受け持たなければならない状況があります。

しかし近年、小学校でも教科担任制が徐々に進んでいる中で、元々は中学校の英語教員だった先生が、小学校で英語の教科担任を受け持つ、また小学校教員が県の事業により1年間かけて、大学に週1回通学して、英語の免許を取得し、その後、英語の専科教員として授業を受け持つという動きが、特に6年生を中心とした英語の授業で行われており、現在、小学校13校中10校で、英語の免許を保有した教員が6年生の授業を行っています。

なお、定数の関係上、英語免許を保有する教員を配置できない学校については、英語の専門的な指導ができる支援協力者を派遣しているため、現在、少なくとも小学校6年生については、全て

の小学校において英語免許を保有する教員の専科指導、または英語を専門的に教えることができる協力者による授業ができています。

高橋市長

片山委員、どうぞ。

片山委員

私たちの時代と比べ、学習環境が整っていて、非常にうらやましいなという感想を持ちました。

教育指導課長や教職員課長の説明を聞くと、様々な取組をしていると思いますが、6月の議会では英語教育実施状況調査の結果に関する一般質問がなされ、結果が良くなかったような指摘もあったと思います。

秦野の英語教育は、望月先生が熱心に取り組んでいたことを覚えていますが、調査結果を踏まえると、実際はどうなのでしょう。

教育指導課長

英語実施状況調査の結果について、教育委員会会議の報告書(資料1)を活用して説明させていただきます。

1の調査結果と分析の(1)、生徒の英語力の状況ですが、CEFR A1レベルが3.8ポイント向上していますが、抽象的な複数の基準が設けられているため、今後、調査方法を検討すべきとの意見も出ております。次に、(2) 授業における児童・生徒の英語による言語活動時間の割合につきましては、小学校では、今年度は6名11校まで英語専科教員を増員し、言語活動の充実を図っております。中学校3年生の割合は、50%と著しく低くなっていますが、調査実施日の12月から1月は、コロナ禍の中での入試を控え、グループワーク等も見合わせたことが原因とみています。一方、(4) 英語教育に関する小中連携の状況及び取組内容につきましては、コロナ禍の対策を優先した影響が大きく出ていると分析しています。今後は、現在進めている小学校教科担任制を軸に、小中一貫した英語力の向上が必要と考えております。最後に2の今後の取組につきましては、本市では、長年にわたり大学や地域と連携しながら、英語教育の充実を図ってきており、令和元年度の全国学力・学習状況調査では、全国平均と同等の結果となっています。これまでの取組を継続するとともに、デジタル教科書も導入されたことからICTを活用した指導方法についても東海大学等の助言をいただきながら、英語力の向上を目指してまいります。

高橋市長	<p>教育水準の改善・向上を目指している中で、私も今回の調査の結果は気になっていましたが、課題もあるようなので、各校ともしっかり情報共有して改善に努めてほしいと思います。</p> <p>他に、いかがでしょうか。</p>
小泉委員	<p>ICTマイスターが中心となって、様々な場面でICTの活用がなされているようだが、デジタル教科書の利用状況は、いかがでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>学習者用のデジタル教科書は、国の実証事業に基づき、各販売会社から無償での提供が行われており、英語を中心に各校で利用が進んでいるところです。</p> <p>有償のデジタル教科書としては、学校からの要望に基づき、令和3年度に英語科の指導者用デジタル教科書を全中学校へ導入しています。</p> <p>指導者用デジタル教科書は、教科書の内容に加え、音声やアニメーションも含まれるため、発音やヒアリングなどの指導において、大変有効であると考えられます。</p> <p>今年度は、学校からの要望に基づき、小学校の英語科へも導入範囲を拡充しました。</p>
高橋市長	<p>片山委員、どうぞ。</p>
片山委員	<p>デジタル教科書を使うことは、スピーキング、ヒアリングにおいても有効と考えますが、小学校では、どのように活用されていますか。</p>
佐藤教育長	<p>市長も東中学校で体験していただきましたが、AIソフトが話の内容を理解してくれないと先に進めないということがありました。小学校でのデジタル教科書の活用につきましては、中学校での取組を、小学校に伝える仕組ができていますので、教科担任制を進める中で、引き続き、中学校での専門的な指導が、小学校により形で伝わるよう進めてまいります。</p>
高橋市長	<p>牛田委員、どうぞ。</p>
牛田委員	<p>学習支援アプリも導入できたようで、このような厳しい財政状</p>

況の中で、毎年、教育予算が増えていることに感謝します。

せっかく導入していただいたので、効率的な活用してほしいと感じています。

少し方向性が変わりますが、教職員の多忙化の観点からの意見を伺ってもよろしいでしょうか。

高橋市長

どうぞ。

牛田委員

学校教育の情報化の推進という中で、平成 27 年の校務支援ソフトの導入は、教職員の業務改善の点で効果があったと思いますが、導入から 7 年が過ぎ、ICT の進歩とともに一段と便利な世の中になりました。

7 月の教育委員会会議でも説明がありましたが、教職員の負担軽減に向けて、ぜひ現場の先生方の意見を取り入れながら、システム更新の機会が、業務改善につながるよう進めていただきたいと思っています。

高橋市長

牛田委員が言われるとおり、教職員の多忙化解消のための ICT 化も重要であると思います。

本日、資料も配られていますが、この点について、学校教育課長、説明をお願いします。

学校教育課長

資料 2 を御覧ください。

平成 27 年度に導入した校務支援システムは、平成 30 年度に保健機能を追加し、現在の学校ネットワークシステムは、校務で使用している各種のサーバやネットワーク関係の機器と一括して調達しております、令和 5 年 9 月 30 日で賃貸借期間の満了を迎えます。

次期システムへの更新に当たり、教職員が子ども一人ひとりと向き合う時間を確保し、効率的な校務処理と教育活動の質の改善、及び負担感の軽減を目的として、システム更新に関する基本的な考え方を示すものです。

続きまして、項番 2 では、現状の把握、項番 3 では、次期システムで実現を目指す姿を記載しています。次に、項番 4 を御覧ください。更新方針になりますが、最も重要な考え方は、(1) にありますとおり、実際に利用する教職員の意見を踏まえて、使いやすいシステムを導入することであると考えています。そのため、今年度、校長、教頭、教務主任、養護教諭及び教育委員会職員を

メンバーとした検討組織を設置して、検討を進めています。

今後は、システム事業者へ概算見積等の提供を依頼し、来年度予算へ向けた準備を進めたいと考えているところです。なお、更新後のネットワークシステムにつきましては、教育系ネットワークとの連携を図る必要があるため、現在のシステムよりも経費がかかることを見込んでいます。このため、必要な機能に優先順位をつけ、確保できた予算の範囲の中で導入していくことになるかと考えています。

高橋市長

小学校のニーズに対応した校務支援システムは、使いやすいことが大前提となると思いますので、来年度のシステム更新に向けて、しっかりと議論していただきたいと思います。

システム変更当初は、使い方が分からないなどの混乱が生じることはあると思いますが、パソコン操作の得手不得手が多少はあるとしても、教職員一人ひとりがICTを効果的に使うことで業務改善につなげ、教師本来の時間の確保に向けて、投資効果を出す必要があるかと思います。

教員のICT技術の向上についても、しっかりと取り組んでもらいたいと思います。

その他、いかがですか。

牛田委員

多忙化の観点から、もう一つお聞きします。

教職員の多忙化は、数年来、大きな話題となっていて、保護者の方々にも浸透されてきたと思います。併せて、私としては、教育委員会職員の多忙化も大きな課題ではないかと考えています。国の補助事業も含めて、10年、20年前に比べると教育環境がだいぶ変化しました。教職員の働く環境を下支えしている教育委員会職員の多忙さも気になっています。

教育環境が大きく変わっていく中で、それに対応する教育委員会の体制整備も必要ではないかと思いますが、お考えは、いかがでしょうか。

教育部長

令和の日本型学校教育やGIGAスクール構想など、新たな学びのスタイルへの転換が求められる中で、また、施設の老朽化や少子化の状況を踏まえ、今後10年、20年先の学校のあり方を考えていかなければならない時期にあって、どの課もぎりぎりの状態で頑張っております。

特に、教育指導課と教育研究所では、令和4年度の前算額が令

和元年度に比べ27%増となるとともに、国、県の補助事業や委託事業も、この3年間で5事業から10事業に倍増しております。

さらに、コロナ禍によりGIGAスクール構想の実現が急速に進み、特にICTに関係する各施策が大きく変化する中で、運用面を所管する教育研究所の役割はとて重要になってきています。

各市町では教育研究所や教育センターの機能強化が進んでおり、近隣自治体では教育指導課長と教育研究所長を兼務している実例は、ほぼ確認されていません。

教育水準の改善・向上と働き方改革のために、現在の兼務解消は喫緊の課題と捉えております。

佐藤教育長

他市町の教育長のお話を聞いていますと、秦野市は、教育に力を注いでいただいていると感じております。だからこそ、教育水準の改善・向上は、必ず実現したいと考えておまして、各校の校長に働きかけをさせていただいております。同時に部長からもお話がありましたとおり、新たな教育課題も出てきておりますので、本日、皆様の御質問に一人二役でお答えしている教育研究所長と教育指導課長がおります。こういう状況もしっかりと見ていかなければならないと思っています。高橋市長からは、常々、大きな視点での組織のあり方について、いろいろと御意見をいただいております。こういう状況も踏まえ、組織強化について、しっかりと根拠を持って説明できるように事務局に指示したところがあります。

高橋市長

予算が増えれば、それだけ仕事が増えてしまうところもありますが、教育にお金をかけることは、必要なことであると考えています。

ICT化だけでなく、部活動の地域移行なども含め、学校教育現場は大きな変革の時期にあり、部長の言葉にもあったように、今後10年、20年先の学校のあり方を真剣に考えなければならぬ中で、組織のあり方は重要であると思います。

これまでも教育委員会の体制強化については、佐藤教育長ともいろいろと議論してきましたが、新たな課題に対しては、現在、各部のヒアリングなども行われていますので、その中でしっかりと対応を考えていきたいと思っています。

その他いかがですか。

飯田委員

私も教職員の多忙化に関連しての質問ですが、教育委員会会議の中でも何度かお聞きしていますが、学校開放業務について協議がなされていますが、その進捗状況は、いかがでしょうか。

文化スポーツ部長

スポーツ推進課を所管する立場から、お答えします。

学校体育施設開放事業につきましては、現在、各学校では書面での申請書をもとに、使用予約等の手続を行っておりますが、利用団体の利便性の向上及び教職員の事務負担の軽減を図るため、公共施設利用予約システム、いわゆる e-kanagawa 予約システムの導入について、検討を進めています。

また、各学校からは、学校開放における施設の鍵の受け渡しが煩雑になっているとの意見があり、鍵の受け渡しの必要がない電子錠の運用について学ぶため、本年6月に先進市である寒川町に、教育委員会とともに視察にも行ってまいりました。

今後もシステム等の導入に向けて、教育委員会等関係課と連携を図る中で、予算や人員確保についても調整を進めてまいりたいと考えています。

高橋市長

この件については、先進市の実績もあるということですので、よく研究していただきたいと思います。

かなり時間も経過しましたので、この議題はここまでとしたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員

—異議なし—

高橋市長

それでは、次の報告事項に移りたいと思います。

全部で3点ございますが、はじめに「通学路の安全確保に関する取組について」、執行部からの報告をお願いします。

学校教育課長

【報告事項1 通学路の安全確保に関する取組について】

通学路の安全対策の強化を図るため、今年度から新たに二つの取組を開始いたします。

1点目は通学路安全対策推進懇話会の設置になります。

通学路の安全を確保するため、毎年度学校から提出される通学路整備要望書をもとに、合同点検等を実施して安全対策を進めておりますが、今年度は、94件の整備要望書の提出がありました。

今後、秦野警察署及び市関係部署において、対策の検討を進めていきますが、今年度は体制を強化し、学識経験者等を構成員とする通学路安全対策推進懇話会へ意見等を求めることで、本市の安全対策に対して、様々な視点から客観的な評価を行うとともに、取組を着実かつ計画的に推進していくこととしております。

初回の会議は明日、7月27日に開催を予定しておりまして、今年度提出があった整備要望書の内容を共有するとともに、合同点検の実施に向けた検討を行っていただく予定です。

2点目の取組として、通学路見守りボランティア登録制度を開始いたします。登下校時における児童・生徒の見守り活動は、PTA、自治会及び交通安全協会などにおいて、既に実施していただいておりますが、本制度は、特定の団体に属していなくても気軽に見守り活動を行いたいという地域の方を対象としたものになります。自宅付近で、散歩やゴミ出しのついでに、児童・生徒へ声掛けなどを行いながら、見守り活動をしていただくことを想定しており、2学期からの開始に向けて、現在準備を進めております。

高橋市長

説明が終わりました。

何か、御意見御質問は、ございますか。

小泉委員

今年度から通学路安全対策推進懇話会やボランティア制度を取り入れて、子どもたちの安全を守るための新たな取組として、大いに期待しています。

懇話会の案件は、どのような内容を想定しているのか。また、話し合いの内容をどのように反映していくのか、お伺いします。

学校教育課長

懇話会は、学識経験者として、東海大学建築都市学部土木工学科の先生をお招きし、その他に小学校長会、PTA連絡協議会、自治会連合会、交通安全協会から選出いただいた方に御参加いただいております。

会議では、個別具体の箇所に対する意見というより、市全体の安全対策に対する考え方や、本市の通学路安全対策に関する指針を定めた、秦野市通学路交通安全プログラムの見直しについて、意見や助言をいただくことを想定しています。

明日の会議には、地域安全課、建設管理課も出席する予定で、いただいた御意見を共通の認識とし、可能な限り取組に反映させていきたいと考えております。

また、東海大学の先生には、先進的な取組についての情報提供や、大学との連携による安全対策の実証事業の実施などについて御協力いただくことも期待しております。

高橋市長

その他、いかがですか。

飯田委員

私も仕事で車を走らせていますと、登下校する子どもたちに出くわしますが、下校時は、友達と話していて危ないと感じる時があります。危ないところには、見守りの方が立っていられますが、散歩やゴミ出しをされている方などが、危ない場面で声をかけるなど、一人でも多くの大人の目で子どもたちを見守っていくことが大切であると感じました。

高橋市長

片山委員。

片山委員

下校時に、母親たちがジャケットを着て、見守り活動を行っている状況を見たことがあります。見守りボランティアをされる方が着用されるものなどは考えていますか。

学校教育課長

まだ、決定はしていませんが、帽子、ストラップ、ジャケットなど、どれが良いかというところも含め、検討しております。ボランティアの方とわかる物について、こちらから御提供する予定で準備を進めております。

高橋市長

通学路の安全確保につきましては、いろいろな視点から考え、取組を進めていただきたいと思います。

その他、いかがですか。

牛田委員。

牛田委員

学路安全対策推進懇話会の新設や通学路見守りボランティア制度の創設は、子どもたちの安全を確保のため、市としての姿勢、

高橋市長

心意気を感じています。是非、子どもたちが安心して通学できる環境を整えてほしいと期待しています。また、配布された資料に進行管理の項目もありますので、適時適切に市民や保護者にも情報提供してほしいと思います。

その他、いかがですか。

ないようでしたら、次に移りたいと思います。

報告事項2 震生湖 100 周年記念事業について、説明をお願いします。

生涯学習課長

【報告事項2 震生湖 100 周年記念事業について】

令和5年9月に震生湖誕生 100 周年を迎えます。資料の1ページ、2ページでは、令和元年度から3年度までの間に、生涯学習課と観光振興課で行った、震生湖に係る取組を記載しています。2ページの一番下になりますが、生涯学習課の取組として、本年3月に、震生湖の成り立ちや関東大震災等を解説した石碑を設置しました。

次に3ページですが、関東大震災から100年を迎える令和5年9月には、記念事業を行う予定であり、観光振興課をはじめとする庁内関係各課と庁内プロジェクトチームで検討するとともに、南地区自治会、開発地主組合、南はだの村七福神と鶴亀めぐりの会、秦野市観光協会、地質の専門家をメンバーとし、さらに中井町産業振興課と生涯学習課をオブザーバーとする秦野市震生湖100周年記念事業検討懇話会を設置し、これまでに2回、懇話会を開催しています。

震生湖誕生 100 周年のプレイベントとして、震生湖の写真展を8月17日から9月15日まで、また、9月10日には現地見学会を実施します。写真展は、「震生湖 あの日あの時」をテーマとして、震生湖に集まる人々の様子や、湖畔の風景を展示します。南公民館、南が丘公民館、はだの歴史博物館を会場として、約1か月の会期で同時開催します。また、会期終了後に、写真の中井町に貸出し、中井町郷土資料館での展示をすることで調整しております。

今後も、100周年に向けて、震生湖の歴史的写真、専門家による解説、地元での保存活用の歩みなどを掲載した記念冊子の作成、はだの歴史博物館での企画展、記念式典と講演会の開催を予定しており、具体的な内容は、庁内プロジェクトチームにより横断的に検討・調整しながら、100周年記念事業検討懇話会で意見を伺い、決定していきたいと考えています。

高橋市長

説明が終わりました。

何か、御意見御質問は、ございますか。

飯田委員

私も小学生の頃、震生湖に遠足で言ったことを覚えています。先日、高校生の娘に震生湖を知っているか聞いたところ、知らないという回答が返ってきました。今の小学生は、震生湖に遠足や校外学習などで行ったりすることはあるのでしょうか。

教育指導課長

震生湖は、市内の小学生にとりまして、貴重な学習資源である

と考えております。ここ数年、コロナの影響で校外学習を含め、学校行事もままならない状況が続いておりますが、以前は、校外学習も実施されておりました。各学校の立地場所にもよりますが、調べ学習をするよい環境であると考えますので、今後も引き続き各校に周知していきたいと思います。

高橋市長

お子様が、震生湖を知らないことは、ショックですね。学校でもふるさと検定なども含め、秦野の良さを教えて行っていただけたらと思います。

片山委員、どうぞ。

片山委員

子どもたちが気軽に震生湖に行くために、安全面での環境整備が大切であると考えますが、そのあたりはいかがでしょうか。

文化スポーツ部長

資料の4の1にありますとおり、観光振興課が中心となり、散策路にウッドチップ使い、安全に歩くための整備を行っております。散策路が整備されますと安全に楽しく散策できると考えておりますので、こうしたことを学校にもお知らせしていきたいと思っております。

高橋市長

確かに、安全面が確保されていなければ、児童に学習で活用していただくことも難しくなるので、庁内で安全確保に向けた調整をお願いしたいと思います。

他にいかがでしょうか。

牛田委員。

牛田委員

震生湖は、観光資源であるとともに、地震で生まれた湖であることを、日々の災害への備えとして、歴史遺産としての意識を大切に持っていただきたいと思います。

高橋市長

その他、いかがですか。

ないようでしたら、次に移りたいと思います。

報告事項3 電子書籍の導入について、説明をお願いします。

図書館長

【報告事項3 電子書籍の導入について】

私からは電子書籍の導入について、現在の進捗を含め、説明いたします。

電子書籍の導入につきましては、昨年3月に策定しました図書館基本計画後期計画などに位置付け、県内自治体での導入状況や図書館利用者へのアンケートなどの調査を行い、メリット・デメリットなどを精査するなど、導入に向けた検討を行ってきました。

インターネットで気軽に資料の貸出、閲覧等ができる電子書籍は、新型感染症拡大防止による生活様式の変化に対応できるとともに、日中は仕事や子育て、介護などをしていて、図書館へ行く時間がなかなかとれないような方、また、高齢や身体的な理由で来館することが困難な方など、様々な方々に読書の機会を提供することができると思っています。

また、タブレット端末やスマートフォンなどの電子画面で閲覧が可能のため、視覚障害者等の読書環境を向上させる効果があること、さらに、子どもたちの読書活動支援や、郷土に関する資料などの、市や図書館が保有する独自資料の公開など、知的好奇心を充足し、学びを支えるような役割の実現など幅広い展開が見込めることなどから導入することといたしました。

現在の進捗ですが、電子書籍を運用する電子図書館システムを提供する事業者の選定では、専門的見地からの総合的な評価が必要と考え、公募型のプロポーザル方式により、受注事業者を選定し、すでにサイトの構築に取り掛かっており、今後は電子書籍の選書、また、職員向けに操作方法や運用方法などの研修を実施する予定です。

また、利用者に対しては、広報はだのや図書館のホームページ、タウン誌等への記事掲載依頼を行うほか、子どもの読書活動推進のために、学校などへも含めて、様々な方法で利用者への周知を図り、10月からの運用開始に向けて準備を進めていきたいと考えています。

高橋市長

説明が終わりました。

何か、御意見御質問は、ございますか。

小泉委員

電子書籍化をしていくことは良いことであると考えます。しかし、限られた予算の中で、選書が難しいのではないかと思います。さまざまな年代への対応、教育に関する本、また、目の不自由な方の本など、市民のニーズも踏まえ、先行して導入している図書

館などの取組も参考にさせていただき、より良い選書ができるようにしていただけたらと思います。

図書館長

司書が、図書の選書を行っていますが、電子書籍化につきましては、お話にありました既に導入された図書館を参考にするとともに、図書館の利用者にアンケートを実施して、幅広く御意見を伺い、仕事に役立つビジネス関連の本や、日常生活に係わる知識や情報に関する本なども選書した例もあります。電子書籍導入後には、利用状況を分析しながらニーズに応えられるようにしていくとともに、紙の本についても引き続き、継続していきますので、そのバランスも検討しながら進めていきたいと考えています。

高橋市長

牛田委員。

牛田委員

今、図書館長から紙書籍も大切にしていきたいというお話があり、安心したところですが、紙書籍と電子書籍をどのように位置づけていくのか。市民サービスをどのように向上させていくのか。長期的な展望をもって、今後、検証しながら進めて行っていただきたいと思います。

私としましては、電子書籍もメリットがあると思いますが、紙書籍には、紙書籍の良さがあると思います。数百ページに及ぶ本を読み終えた後の充実感や満足感は、捨てがたいという感想もあります。それぞれの良さを生かし、全体のバランスを考えながら取り組んでいただけたらと思います。

図書館長

紙書籍を望んでいらっしゃる方も多くいらっしゃると思いますので、いただいた御意見を念頭に置き、バランスを取りながら、ニーズにお応えしていきたいと思います。

高橋市長

ほかに、ございますか。

高橋市長

ないようでしたら、本日の会議を終了したいと思います。よろしいでしょうか。

各委員

—異議なし—

高橋市長

本日は、長時間にわたり、貴重な御意見をいただきありがとうございました。

教育部長

実は、今年の4月に、初めて新任校長と懇談する機会を設けましたが、その中で、改めて、事業等を行うに当たっては、横の連携と現地現場主義が大事であると感じました。今日も吉田校長に御参加もいただきましたけれど、ICTの環境を知るよい機会にもなりました。ありがとうございました。

本日の会議の中では、教育環境が大きく変わっているという御意見がありましたが、そのような時代の変革期だからこそ、横の連携が重要であると思います。

教育委員会と市長部局が連携して、子どもたちのため、そして本市の教育の発展・向上に向け、取り組んでまいりますので、教育委員の皆様には、引き続き、御尽力いただきますようよろしくお願いいたします。

皆様お疲れ様でした。

以上を持ちまして、令和4年度、第1回の総合教育会議を終了いたします。

本日は、ありがとうございました。